PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number:

53-082887

(43) Date of publication of application: 21.07.1978

(51) Int. CI.

B32B 27/18

(21) Application number : 51-158235

(71) Applicant: TOYOBO CO LTD

(22) Date of filing:

29, 12, 1976

(72) Inventor: HACHITSUKA TSUYOSHI

YASUDA YOSHIRO

(54) FLAME-RETARDANT LAMINATED FILM

(57) Abstract:

PURPOSE: To manufacture a flame-retardant film without degradation of its physical and chemical properties, by laminating plastic films through adhesive layer(s) containing a flame-retardant.

EGAL STATUS

Date of request for examination]

Date of sending the examiner's decision

र्ज़ि rejection]

Kind of final disposal of application

other than the examiner's decision of

rejection or application converted

registration]

Date of final disposal for application

[Patent number]

Date of registration

FNumber of appeal against examiner's

decision of rejection]

[Date of requesting appeal against

examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998, 2000 Japan Patent Office

Ш

09日本国特許庁

公開特許公報

(1)特許出願公開

昭53-82887

⊕Int. Cl.² B 32 B 27/18 識別記号

Ø日本分類 25(9) A 0

庁内整理番号 2102 - 37

❸公開 昭和53年(1978)7月21日

発明の数 1 審査請求 未請求

(全 5 頁)

❷難燃性複合フイルム

即特 ❷出 顧 昭51-158235

願 昭51(1976)12月29日

八塚剛志 個発

犬山市大字木津字前畑344番地

者 安田佳郎

犬山市大字木津字前畑344番地

⑪出 願 人 東洋紡績株式会社

大阪市北区堂島浜2丁目1番9

発明の評価な识別

本発明は熱可菌性プラスチンタフィルムの普盟

ラスチッタフィルムねるい はシートは一会用 連および工業用油において広く 使用されているが その無色化が強く要求すれている。そのため 性プラスチックフィルムが舞発されているが、そ れらはヘロゲン、弦楽、リン、研賞を含有するポ に成形することが挙しく困難になり、また溶散広 形時、罹患剤の分解ガスによる機械の富食または 性は無駄剤を新加しないものにくらべて著しく描 われる。通常のプラステフラフィルムあるいはシ **数性アイルムを得る状みも行をわれている。 その** 場合、完分を提供性を得るためには、重めて多魚 の乗虫剤を含有したコーテインが層を基材フィル **ム上に独布したければたらず、かつその数要は基** 材に独国整備していたければならない。しかしを がら、一数的に雑鑑剤を含有する量有面の熱的性

-485-

収、化学的性質および電気的性質は悪しく扱われる。したがつて無布方法により、質足を開発性マイルムを得ることは振めて困難である。

本元明者らはかかる異状に個か、誰々似立枚引した効果、プラステフタフィル人あるいはシートの他題的あるいは化学的性質を何ら低いとなる。 最低性フィルムを容易に得る方法を見いるとして発明に質量した。すたわち、本見明に少さくともなるである。 我のプラスチフタフィルムにおいて、決定制度が発 世界であることを特徴とする概念性複合フィールの表示。

順盤利を含有するコーナインダ射をマイル人の 片面あるいは両面に触がする場合にくらべて、離 他層をマイル人とマイル人の側に存在させること により、離燃気の金を形しく拡少させることが可 他となり、得られる観光性フィルムの物理のある いは化学的性質の低下を十分に防ぐことができる。 さらに、緩光層が収集、外部と装骸することが無 いために、使用できる緩生剤の複雑およびそれを 風景する数据の意味が豊富化なつた。

本発明におけるアラスチファフィルムとしては ボリエナレンテレアタレート、ボリブ・レンテレ フォレート等のボリエステル系フィルム、ボリエ、 ナレン、デリブロピレン等のボリオレフィン系フィルム、ボリカロピレン等のボリオレフィン系であるがリアと ボネフィルム、ボリカーボネートフィルム、ボリ スチレンフィルム、セルロースアセナート、セルロース・アセテート・ブチレート等のセルロース 悪球体フィルムなどが挙げられる。上記名数カ カの鉄度されるシートであつてもよい。

本発明における設備形として世典宣合がリエス
アル世間、 ばりウレタン 種間、エポキシ親間、 塩 生化ポリオレフイン、酢酸ビニル共産合体 (たと まばエサレン路観ビニル共産合体、塩化ビニル 酸ビニル共産合体)、 天然ゴム、合成ゴム (たと まばアタリルゴム、ブタリエン・ステレン共産合 体)、セルロース系設備剤、フエノール系質固な アの無げられる。

とれらの接着料は単数でも、あるいはま就以上度合して使用してもよい。接着料は貼り合せるフィル人の難倒によって適宜選択すべきものであるが、特に共取合がリエステル報節とポリイソシアネート化合物、共変合がリエステル報節とエポケシ報節、あるいは共産合がリエステル報節とエポケシ報節とボリイゾシアネート化合物との混合物などが好ましい。

本是明で用いる 開電剤としては、ヘッデン含有 化合物、リン含有化合物などがあり、好ましくは ヘッデン含有化合物、物にハッデン含有有級化合 物および/またはヘッデン含有リン化合物である。

ハロゲン含有有機化合物としては、ハロゲン化 製化水煮、薄香炭ハロゲン化合物、裏状ハロゲン 化炭化水煮、ハロゲン化ポリカーボネート、ハロゲン化労香菓エーテル、ハロゲン化ポリエステル ハロゲン化エステルなどがあり、たとえば塩素化 パラフィン、ナトラブロモエタン、テトラブロモ ベンゼン、ハキナブロモベンゼン、ハキサブロモ ジフエニルエーテル、ハキナブロモクフエニルま キサイド、テトラクロロジフエニルスルキン、ヘキャプロモンクロドデカン、ベータロロベンタレクロデカン、 2,4 - ピス(3,4 - ジプロモー4 - ヒドロキシフエニル) プロバン、 8,4 - ピス(3,6 - ジプロモー4 - β - クロロエトキシフエニル) プロバン、テトラプロモビスフエノール4 の ヴァセナートなどが挙げられる。

ハロゲン会有リン化を物としては、ハロゲン化リン、ハロゲン会有リン酸エステル、ハロゲン会有ネスフォネート、ハロゲン会有ネスフィン、ハロゲン会有ネスフィン、ハロゲン会有ネスフィンななどがあり、たとえば複化リン、トリス(タークロロエテル)ネスフェート、トリス(リプロモブロビル)ネスフェート、トリス(トリブロモフェニル)ネスフェート、トリス(トリブロモア・カリネスフェート、ドリフロロフェニル)ネスフォネート、トリス(アークロロフェニル)ネスフィン、トリクロロエテルネスフィトなどがある。

・ 上記度最初は三菱化アンチモン。49號薫局。

-486-

水和アルミナ、塩化アルミニウム、モリプザン食 アンモニウム等と見合して使用してもよい。 一数にハロゲン含有化合物は、設場所としてエポ モン棚間、繊維宝具ポリマー、ポリピニルアルコ ニル等の観察供与物質を使用する場合には、リン 含有化合物と併用すると効果が著しい。

酸素剤の使用量はハロゲン含有化合物の場合、 複合フイルム当りハロゲン含有率が1 - 1 s 重量 まであることが鑑ましい。

特にハロザン含有化合物のみを使用する場合に は複合フィルム当り、ハロザン含有単が3重量を 以上であるととが鑑ましく、ハロザン含有化合物 とリン含有化合物とを併用する場合には複合フィ ルム当りハロザン含有単が3重量を以上であると とが鑑ましく、 35にハロザン含有化合物と三波 化アンチモンとを併用する場合にはハロゲン含有 準が3 重量を以上にあるようにすればよい。

競技剤の使用量は多い性ど離断効果は優れるが 全複合フィルム当りのハマゲン含有率を1.8 重量 多以上にする必要はなく、また実質上、展別関係 T . .

本発明の複合フィルムを製造するにはフィルム の少なくとも一面に低燃剤を含む接無剤を施布し 乾燥させて溶剤を製火して要、他のフィルムを貼 を合せるドライラミネート方式、フィルムの少な くとも一面に催燃剤を含有する接着剤を溶験施 した要、他のフィルムを貼り合せるホフトメルト 方式などが可能である。

服長別を含む装集系からなる飲食剤からなる装 着剤服の厚さは装集剤中の機飲剤の裏機あるいは 量、貼り合わせるフイルムのಷ収あるいは厚さに 上つて長たる。

本発明により得られる複合フィル人は、接着用 層中に概念剤が存在するととにより、プラスチフ タフィル人の物理的あるいは化学的性質を何ら振 うととなく概念性に優れたフィル人である。特に 離断剤を含有するコーティンが剤をフィル人の片 到あるいは両面に強率する場合に比べて、鍵盤性 に優れる点は重由は明らかでないが、予測せぬ優れた効果である。

以下、実施例を用いて本発明を説明する。 実施例中、単記部とあるのは重量部を示す。

学集例 1

二輪近伸ボリエナレンテレコタレート(以下FRTと時十)フイルム(厚さ40月)に第1度に示す 開始解及び接着剤を含む酢酸エチル溶液を、不得 別分 40 f/4に放布し、1 × 0℃で 8 分間結果を 無した要、未処理のドヨエフイルム(厚さ 8 0 月) と100℃で 1分間、 8 m/elの加度下で熱圧増し

複合フィルムをE 0 m (仮さ) × 1 m (解) 化切り取り、通宜に吊し、直径 0.6 m の注射針から出る受さる E ± E m のプロパンガスの長により、 5 砂筒 型鈍した後、臭を散き、自己情火時間を習定した。

比較何としてアヌミフィルム(罪さ 8 0 m)に 片面あるいは両面に、鍵盤用を含む装着形を致る したものの自己情火時間を測定した。その結果を 第1 要に示す。 7 1. C

		#		-	*		ľ	
		*	保奈	•			!	
	-	報		1	•	E.	1	=
	193(8,3-0720	7 4 4 4 Y	10 10 E	S = 10 M M	\$ 24 4 14	2		į
米衛鹿1	0.0			•	-			۰ ۰
•	:	•	۰	•	-			•
-	•	:		•	:		-	-
•	;	•		•	-	7		
Hamilton)	•		۰	•	-			
9	100	0	٥	-	-	+		1 2
8	•		٥		-	-	,	
7 (1	(61) フィケトの子間に顕名	元黄谷。						
4	レイイムの英国内製作。	日下等者。						
	0 4 人ミップニ製法製造集員	۸ * ۳ ۲						
. i	「日本」とかいかのは、「日」	N K J	1 1 1	7100	1	3		
	はんさんろの子がの「まり	と発見し	4 8 8	777		泛使 七十分 解析	_	

-487-

PBTフイルム間に無色別せるひ段類別層をもうけた本発明品は無熱剤をPBTフイルムの片面あるいは両面に動きしたものに比べて、鍵盤性が著しく改善され、雑型剤の含有量な少量でも無色

東路門 1

表面処理されたを職任作が9プロピレンフィル フィルム 人(以下 OPP Addres と略す。原さ 100 g)、K、実 他例1と同様に、第 a 提に示す無能剤を含有する 設力剤を独布し、100でで a 分面色質能接受、 未免罪のOEFフィルム(原さ100 g)と、 a 0でで 1分間 a m/d の加ま下で色圧増し、実施剤1と約

比較例として022フィルム(原さ1002) 氏部1表に示す無効剤を含む鉄岩和を片面さるい は両面に急むしたものの自己消火時間を表定した。 よの結果をお1表に示す。

1	*	.	(00)		-	001	1 0 0	3 O O 4	1001		(国际扩展的 0 年)
		#		0	•	•	0.0	<u> </u>	0 0	(41) フィルムの子四八輪巻	

-488-

物許出版人 東洋紡績 株式会社

goodgas, chesoe

--489-